

第44回会議における意見・質問等取りまとめ

御意見・御質問等	回答
目標2「持続可能で使いやすい公共交通への転換」の施策として、「バス・タクシー乗務員の確保支援を通じた公共交通の維持」を取組としてあげていただきありがとうございます。乗務員不足は重要な課題の一つであることから、協力させていただきたいと考えております。 また、実施のスケジュールにつきまして、早めていただくことができるのであれば、お願いいたします。	市で実施主体となり、取り組んでまいります。交通事業者の皆様にも、制度構築に当たっては意見交換などをお願いしたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。 本年4月から乗務員の時間外労働が規制されることに伴い、乗務員不足の課題はますます深刻化していくことが見込まれますので、御意見を踏まえまして、実施スケジュールの前倒しできるように検討してまいります。
しっかりした計画ができたと考えます。 目標に向け、施策の実施を期待しております。	(回答不要)
デマンド交通については、申し込んでも利用できない事が続いて期待していない高齢者が増えている。 タクシー券の利用を検討していただきたい。従来数字でどの程度お金がかかるのか一度も計算の基礎が示されていない。真剣に検討する気が無いと思われても当然である。 大山地区・菁莪地区の人達に対しては、「高齢者等交通弱者にとって利便性の高い公共交通の整備」にはほど遠い状況である。	のりあい交通については、令和6年10月からの運行業務委託の中で運行台数の増車も含めたサービス内容の充実に向けて、本協議会の中で取り組んでまいります。 また、本計画における施策として、施策2「高齢者等交通弱者の移動手段の拡充に向けた検討」や施策7「移動が不便な地域における新たな移動手段の確保に向けた検討」を掲げており、本協議会で検討を進めてまいります。 なお、タクシーチケットの助成制度につきましては、利用者の負担も少なく、ドア・トゥー・ドアのサービスであり、利用者にとって便利な反面、対象者を一定年齢以上の高齢者などに限定しても、多額の財源が必要となるところであり、のりあい交通とは異なり、国等の補助制度や地方交付税措置もなされていないところでございます。 仮に、75歳以上の高齢者の方に、乗車したタクシーの初乗運賃相当額に近い500円で、往復1,000円を月1回助成した場合を試算いたしますと、75歳以上の約8,000人全員が利用するとすると、単純計算で年間9,600万円の財源が必要となります。実際の利用率を見込むことは難しいですが、仮に3割の方が利用した場合でも、約2,900万円の財源が必要となるものでございます。